



IBARAKI TOYOPET  
RACING TEAM

## GR 86/BRZ Race Rd8 ツインリンクもてぎ 予選で予想外の大失速、下位に沈むも決勝で一転 13台抜きを果たして、地元大応援団の期待に応える！



TWIN RING MOTEGI

GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズ第8戦  
2018年9月22～23日 ツインリンクもてぎ（栃木県）  
晴れ 10周（36台出走）  
ドライバー：平木湧也  
予選29番手／決勝15位

GR 86/BRZ レース クラブマンシリーズ第8戦  
2018年9月22～23日 ツインリンクもてぎ（栃木県）  
晴れ 10周（予選72台出走／Aレース45台出走）  
ドライバー：松原亮二  
予選20番手／決勝19位



レースメカニック：清水 修（営業支援部）、池戸 誉（水戸千波店）  
粕谷貢平（大宮バイパス店）、水谷吉輝（笠松運動公園店）

茨城トヨペットレーシングチームが、平木湧也選手とともに挑むGR 86/BRZ レースのプロフェッショナルシリーズ第8戦が、9月22～23日にツインリンクもてぎで開催された。今回はクラブマンシリーズにも松原亮二選手がスポットで参戦。第5戦に続き、2台体制でサーキットに乗り込んでいた。

ツインリンクもてぎといえば、チームの本拠である茨城県に隣接する栃木県に位置することもあって、まさにホームコースと言えるサーキットである。決勝が行われる日曜日には100人近い大応援団が訪れることもあって、今回は絶対に結果を残したい戦いとなっていた。しかし、最終調整とすべき金曜日は、終日あいにくの雨模様。午後からの専有走行で湧也選手は16番手だったとはいえ、トップから1秒と遅れず。ウェットコンディションだったなら、まずまずの仕上がりといえたが、問題は土曜日から天候が回復してドライコンディションになるのは確実ながら、その状態での走り込みが十分にできていないことだった。

一方、スポット参戦のクラブマンシリーズには本来、野村達也選手が出場するはずだったが、仕事の都合で十分に練習時間が取れず、急きょ松原亮二選手がピンチヒッターを務めることとなった。松原選手といえば、何度もヴィッツレースではチャンピオン経験を持つベテランで、86/BRZ レースにも第5戦以来の出場となる。クルマの状態を改めて確認する意味でも、意義のあるレースとなりそうだ。しかし、金曜日に初めて乗るクルマで、しかもいきなりウェットコンディションとあって、やや違和感を覚えたよう。松原選手は専有走行1組の15番手に留まっていた。

土曜日の早朝に行われたクラブマンシリーズの予選は、前日までの雨が路面にウェットパッチを残していたが、レコードライン上はほぼドライ。ただ、こういう雨上がりの路面は得てして汚れていて、後半になるほど状態は良くなるもの。それは松原選手も承知だったが、何しろドライコンディションをまったく走っていないため、あえて計測開始と同時の走行に。クーリングラップを挟んで3回アタックを行なった松原選手は、2回目のアタックで2

分 22 秒 332 をマークして 1 組の 10 番手につけ、決勝 A レースに 20 番グリッドから挑むこととなった。

「ドライでこのタイヤを履くのは予選で初めてなので、どんどん路面が良くなっていくのは分かっていたのですが、最初から行って。最後の周がコンディションが一番良かったのですが、タイヤはもうグリップしなくなっていました。2 回目のアタックの走りが最後にできていれば、あとコンマ 5 秒は縮まった気がします。組んだばかりのデフが硬くて、昨日の雨では分からなかったのですが、効きすぎているようなので決勝はほどほどに頑張ります」と松原選手。

皮肉なことに降らないはずの雨が、クラブマンシリーズとプロフェッショナルシリーズの予選の間に降って、またも路面は濡らされてしまう。始まりの頃にはほとんど乾いていたものの、非常にダスティだったのは間違いない。できれば、後半アタックしたいところだが、もし赤旗が出たら、そうでなくてもオイルでも撒かれたら……という不安もある。そこで今回はアタックのタイミングが、完全に 3 グループに分かれた。最初から行くグループと折り返しを過ぎてから行くグループ、そしてチェッカー間際の 1 周にかけたグループだ。

湧也選手が選んだのは、折り返し以降のグループ。その中からポールシッターが生まれたから、判断としては的確だったものの、路面状態とタイヤ、そしてセッティングに明らかな相性の違いがあったことだ。残念ながら湧也選手は合わなかった方……。そのため、トップから 2 秒 6 差の 2 分 20 秒 857 を出せずに留まり、なんと 29 番手と下位に沈んでしまう。

「全然ダメでした……。引っかかったとか、そういうのではなく、普通に走ってグリップ感がなくて、このタイムという感じです。ちょっと厳しいですね。昨日までは調子良かったのですが、雨降って砂が浮いたりして、ちょうど僕らのタイヤにマッチしなかったというか。コンディションの面で、パフォーマンスが低かったかもしれません。」と湧也選手。

日曜日早朝からの開始となったクラブマンレースの決勝レースは、今度こそ完全ドライでの戦いとなった。松原選手はスタートをそつなく決めて、まずはポジションキープでレースを開始。その後はあえて積極的に仕掛けることはなかったものの、トラブルを抱えたり、失速したりした車両を抜いて 2 周目には 18 番手、4 周目には 17 番手、そして 7 周目には 16 番手に順位を上げる。こうなると見守るピットからは、入賞の期待が抱かれるものの、中盤から松原選手はブレーキに不安を覚えるようになっていた。ドライコンディションでのロングランがまったくできていなかったから、これをやむを得まい。

懸命にセーブして走り続けていたが、最終ラップには前後にトラフィックが生じていたため、危険回避のために数台の先行を許す。この判断は正解だった。その後の最終コーナーで生じていた接触を回避できたからだ。19 位に終わったものの、無傷での完走を果たして松原選手は満足そうだった。

続いて行われたプロフェッショナルシリーズの決勝も、もちろんドライコンディションでレースが競われた。いかにホームコースとはいえ、もてぎは抜きどころが決して多くないサーキットである。正直、29 番手からスタートを切る湧也選手は、苦戦を強いられることが覚悟の上だったが、同じようなコンディションに見えて、今度は湧也選手の装着したタイヤにマッチしていたようだ。スタートを決めた湧也選手は、オープニングラップのうちに 23 番手に浮上。集団の中で、なおもチャンスを待つと、4 周目には一気に 19 番手にまでジャンプアップを果たす。

6 周目には 2 台を相次いでかわし、勢いはなおも止まらず 8 周目には 17 番手に。さらに最終ラップにはもう 1 台をかわして、16 位でフィニッシュ。実に 13 台抜きを果たし、これには集まった大応援団も大喜び。見事、期待に応える格好となっていた。さらにレース後には接触によるペナルティを受けたドライバーが順位を落としたことから、湧也選手はひとつ順位を上げて 15 位という結果を得ることとなった。

残るレースは鈴鹿サーキットでの最終戦だけ。10 月 27～28 日に行われるレースが、湧也選手にとって今年 1 年間の集大成となることが、大いに期待される。



## #18 平木湧也選手のコメント



今回は地元の大応援団も来ているので、『ちょっとでもいい順位でゴールできるように』って感じで走りました。予選が残念でしたが、スタートも決められましたし、同じタイヤを履くドライバーの中では決勝のペースも良かったと思いますし、順位も13個ぐらい上げることができたので良かったです。これもみなさんの応援のおかげです！ ありがとうございます。早いものでもう残り1戦となって、鈴鹿の状況はどうなるか分かりませんが、このところレースもいい感じでできていて、チームもクルマもいい感じになっていると思いますので、なんとしてでもベストリザルト目指して頑張ります！

## #510 松原亮二選手のコメント



スタートは普通だったのですが、その後アクシデントだったり、失速したクルマを抜いたりして、ちょっとずつ順位を上げていったのですが、5周を過ぎたあたりからブレーキのタッチが悪くなってきて、ドライで走っていなかったのも、これはちょっとまずいなど。ラスト3周ぐらいはダウンヒルのあたりが止まらなくなってきたので、前を追うというよりも抜かれないようにセーブして走っていたのですが、前の方でもつらそうなクルマが増えてきて、引っかかるような感じになってしまっ。最後の周は90度の手前で走ってもらいました。ブレーキがこんなにきつくなるのが分かっていたら、序盤に前のクルマを避けて冷やしたりしたのですが.....。でも、クルマの課題も見えて、チームやオーナーに指摘もできたので、いいレースだったと思います。

## チーフメカニックのコメント ～清水 修 (FUN TO DRIVE 推進グループ)～



GR86/BRZ Raceの派遣に当たり、ご支援・ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。第7戦はツイインリンクもてぎでの開催という事で大応援団も結成され熱い声援を送って頂きました。本当にありがとうございます。予選の結果は振るいませんでしたが、皆様の応援のお陰で大幅な順位アップでのフィニッシュをする事が出来ました。セットアップも含め予選での複合的なミスが重ならなければ入賞も狙えたと思うと非常に悔しく思います。次戦は最終戦の鈴鹿となりますのでチームの総力を挙げて挑みたいと思います。更なる応援を宜しくお願い致します。

## メカニックのコメント ～池戸 誉 (水戸千波店)～



今回、初めて86/BRZレースメカニックとして初参加させて頂く事が出来ました。ご支援、ご声援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。レース経験は無いですが普段の仕事とは全く違い、タイヤ空気圧の調整ひとつでもラップタイムへ直結するシビアな世界だと改めて痛感しました。ドライバーはもちろんですが、レースを支えるスタッフの力も勝つ為には大切な要素となりますので、少しでも興味がある方は是非参加をお待ちしています。

## メカニックのコメント ～粕谷貢平 (大宮バイパス店)～



今回86/BRZレースに参加させてもらうにあたり、ご支援頂いた関係者の皆様ありがとうございました。初めてのレースメカニックということもあり、なかなかスムーズに作業ができない場面もありましたが、普段の仕事とは違った非常にシビアな作業、そしてそのシビアなセッティングがタイムラップに大きく影響するという世界を間近で体験する事ができました。レースの世界からも学ぶ事が沢山ありますので是非より多くの方の参加と応援をよろしくお願い致します。

## メカニックのコメント ～水谷吉輝 (笠松運動公園店)～



86/BRZレースメカニックとして参加させていただき、凄く楽しい時間を過ごせました！参加にあたりご支援頂いた皆様、ありがとうございました。レースは天候や気温などに左右されるなど、とても難しいと感じました！普段の整備ではやらない、内圧や、車両のセッティングなどとても勉強になりました！とてもレースに興味湧いて来て、また機会があるのならレースメカニックとして参戦したいと思います！